

2021年2月

経営に関するアンケート調査

令和3年1月26日～2月12日

会員数 173施設

アンケート送付 146施設

回答数 52施設

回答率 35.6%

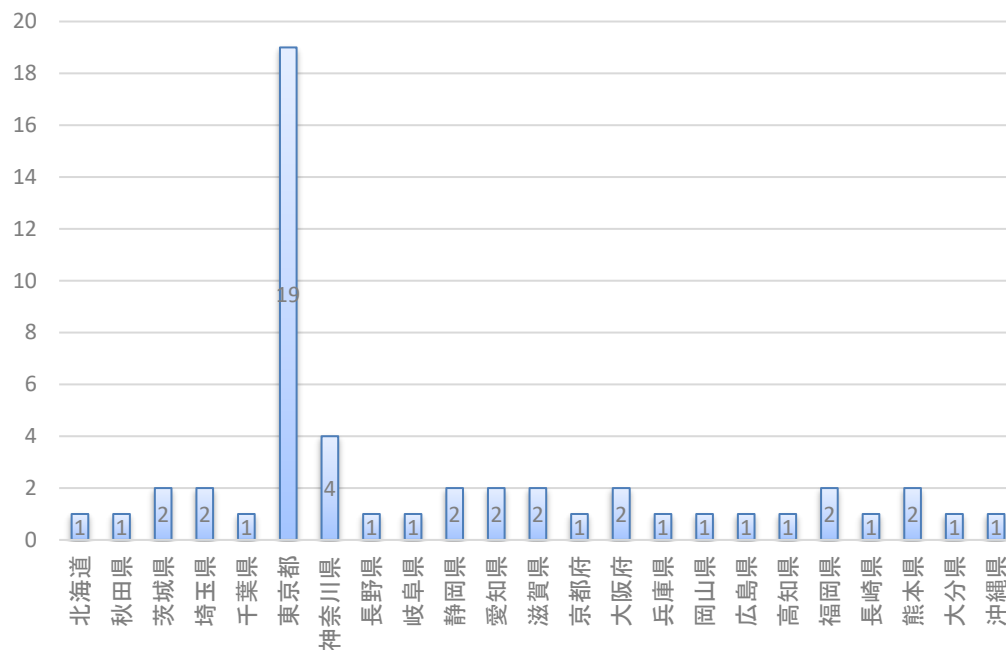


日本人間ドック健診協会

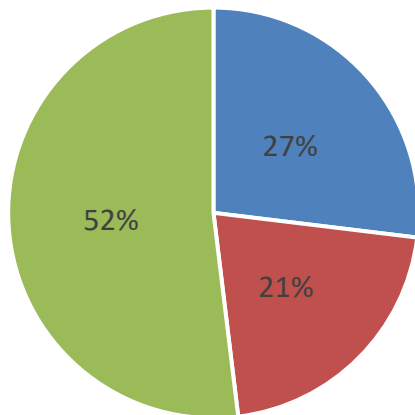
Japan Association of Ningen Dock Kenshin

◆都道府県別回答施設

| | | | | | |
|------|----|-----|---|-----|---|
| 北海道 | 1 | 岐阜県 | 1 | 広島県 | 1 |
| 秋田県 | 1 | 静岡県 | 2 | 高知県 | 1 |
| 茨城県 | 2 | 愛知県 | 2 | 福岡県 | 2 |
| 埼玉県 | 2 | 滋賀県 | 2 | 長崎県 | 1 |
| 千葉県 | 1 | 京都府 | 1 | 熊本県 | 2 |
| 東京都 | 19 | 大阪府 | 2 | 大分県 | 1 |
| 神奈川県 | 4 | 兵庫県 | 1 | 沖縄県 | 1 |
| 長野県 | 1 | 岡山県 | 1 | | |



◆緊急事態宣言中の対応



■ 休止しなかった ■ 短期間休止 ■ 休止

| | |
|---------|----|
| 休止しなかった | 14 |
| 短期間休止 | 11 |
| 休止 | 27 |

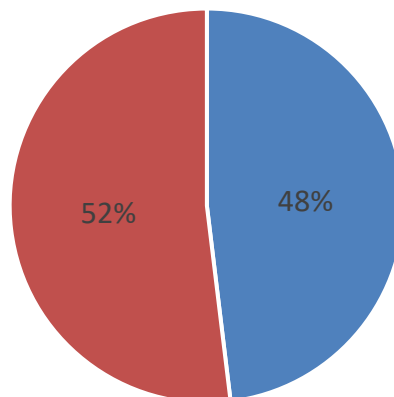


日本人間ドック健診協会

Japan Association of Ningen Dock Kenshin

◆開設形態

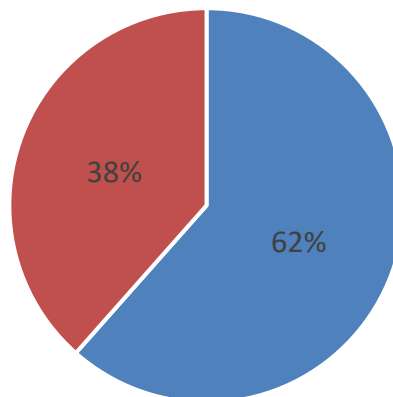
| | |
|------|----|
| 健診単独 | 25 |
| 病院併設 | 27 |



■ 独立健診 ■ 病院併設

◆貸料支払

| | |
|----|----|
| あり | 32 |
| なし | 20 |



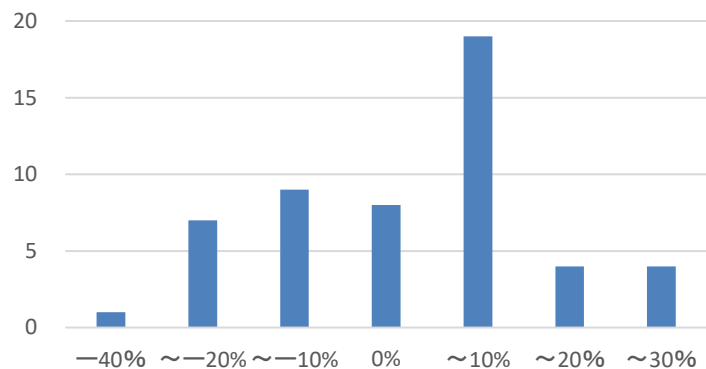
■ あり ■ なし



◆2021年1月、2月、3月(予測)の健診収入の対前年比(%)

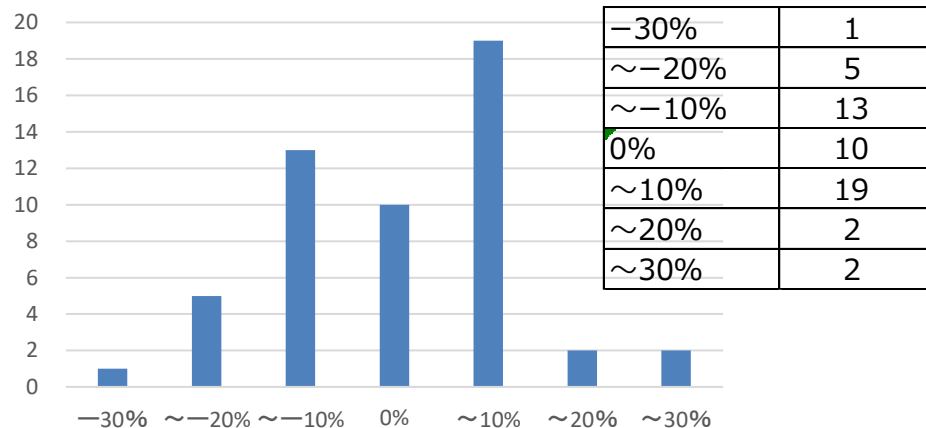
(110%の場合は+10%、90%の場合は-10%)

1月

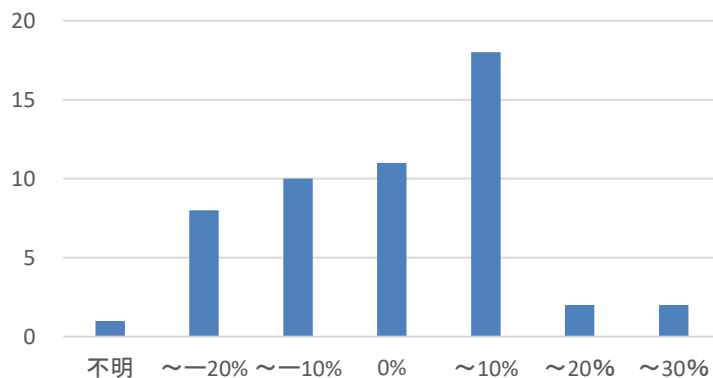


| | |
|-------|----|
| -40% | 1 |
| ~-20% | 7 |
| ~-10% | 9 |
| 0% | 8 |
| ~10% | 19 |
| ~20% | 4 |
| ~30% | 4 |

2月



3月



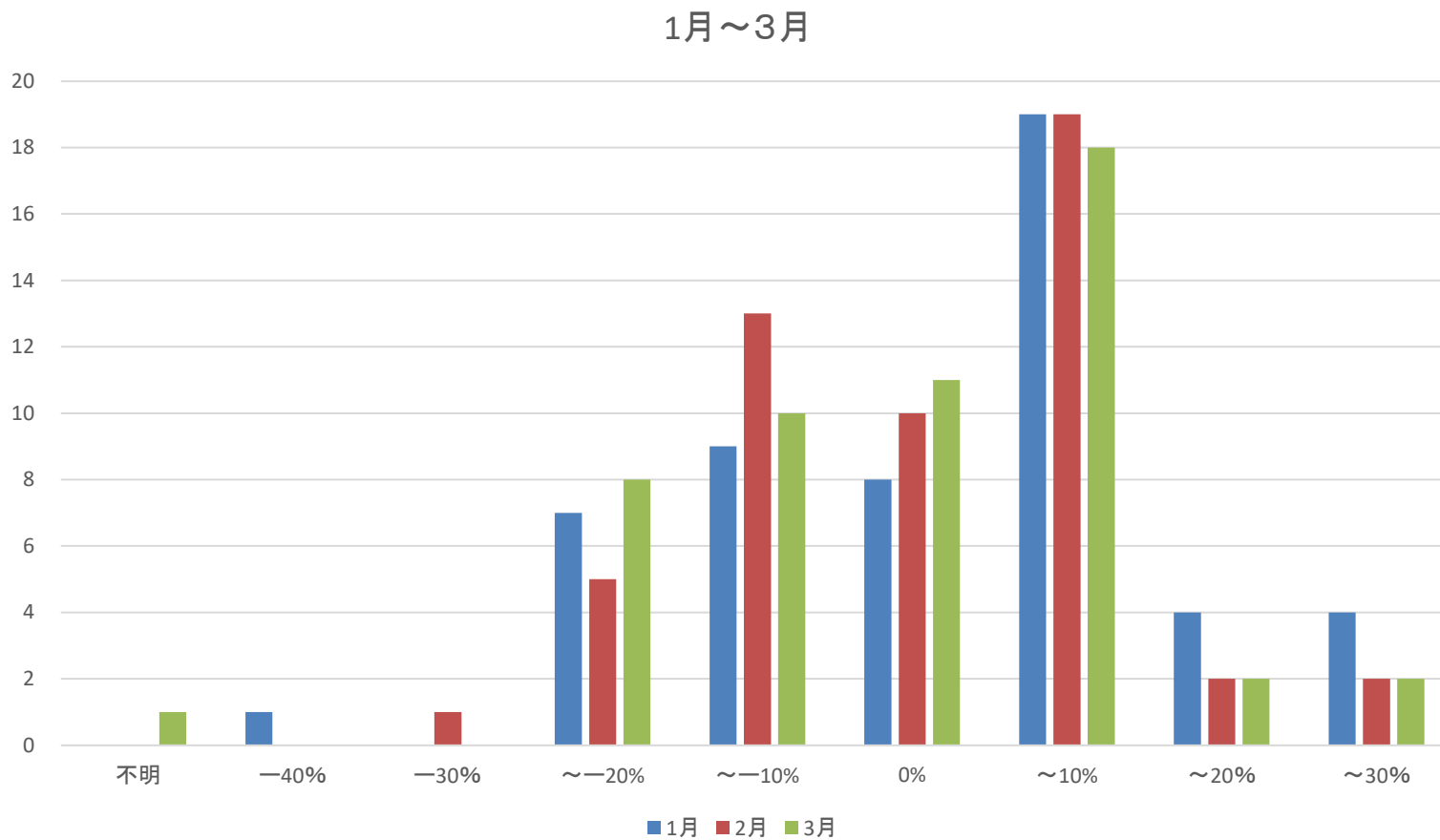
| | |
|-------|----|
| 不明 | 1 |
| ~-20% | 8 |
| ~-10% | 10 |
| 0% | 11 |
| ~10% | 18 |
| ~20% | 2 |
| ~30% | 2 |



日本人間ドック健診協会

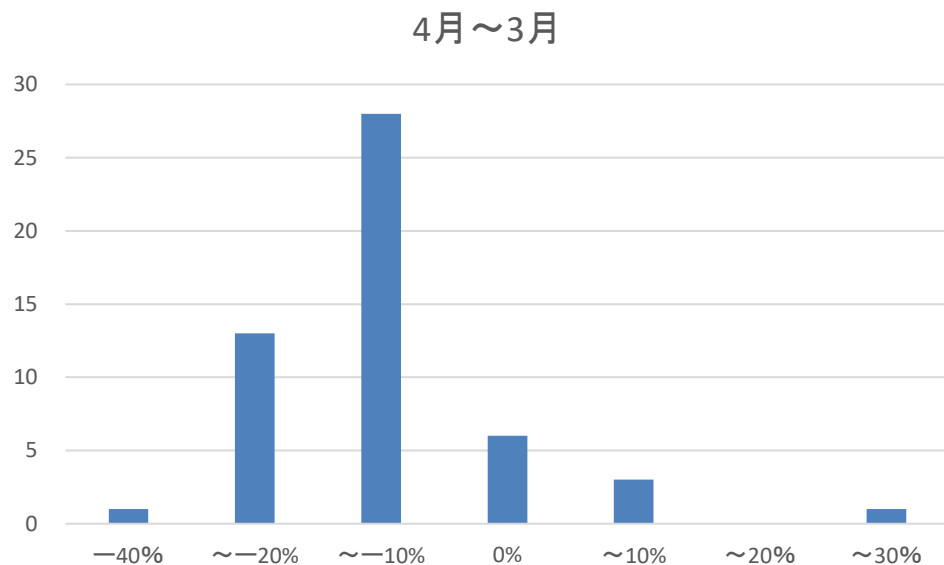
Japan Association of Ningen Dock Kenshin

◆2021年1月、2月、3月(予測)の健診収入の比較

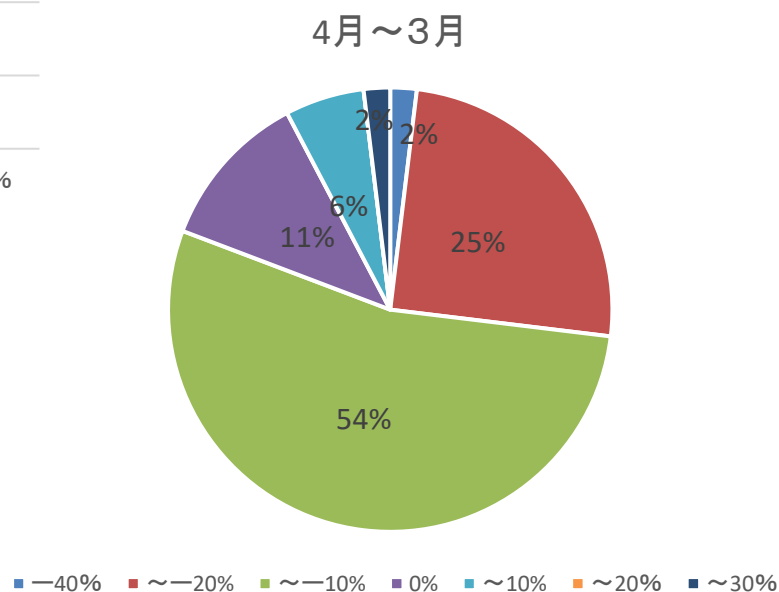


◆今年度(2020年4月～2020年3月)の健診収入の対前年比(%)

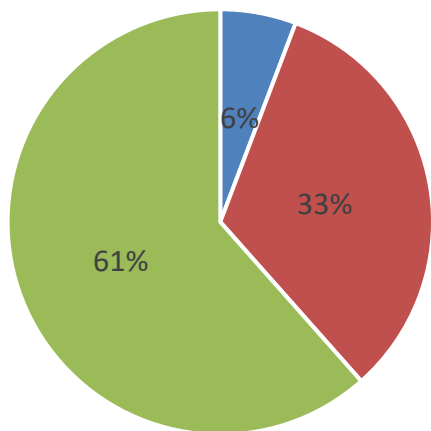
(110%の場合は+10%、90%の場合は-10%)



| | |
|-------|----|
| -40% | 1 |
| ~-20% | 13 |
| ~-10% | 28 |
| 0% | 6 |
| ~10% | 3 |
| ~20% | 0 |
| ~30% | 1 |



◆長期的な経営見通しについてどのようにお考えですか

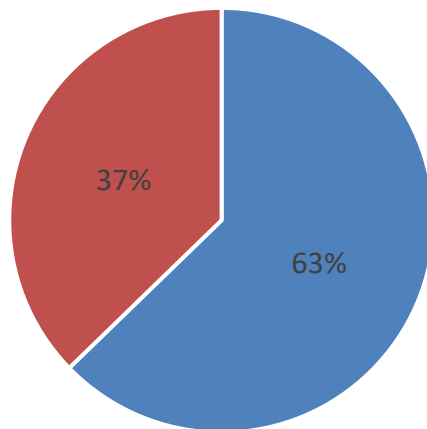


- よくわからない
- 影響は一定程度であり心配していない
- 影響は深刻ではあるが、現状の施設規模で維持できる

| | |
|--------------------------|----|
| よくわからない | 3 |
| 影響は一定程度であり心配していない | 17 |
| 影響は深刻ではあるが、現状の施設規模で維持できる | 32 |



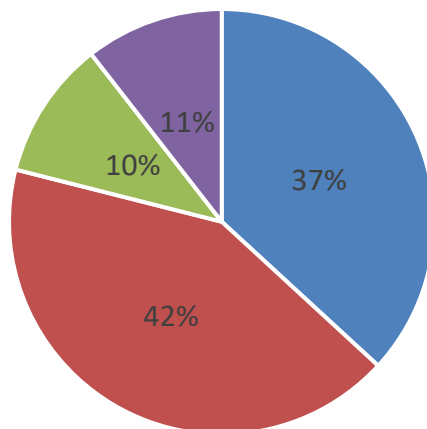
◆1日の受診者の受け入れを、コロナ感染防止対策の事情により以前に比べ制限していますか。



| | |
|---------|----|
| 制限していない | 32 |
| 制限している | 19 |

■ 制限していない ■ 制限している

◆制限しているを選択した施設 制限の程度について



| | |
|------|---|
| 約90% | 7 |
| 約80% | 8 |
| 約70% | 2 |
| 未回答 | 2 |

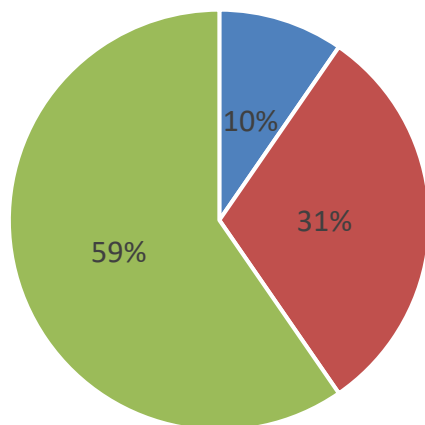
■ 約90% ■ 約80% ■ 約70% ■ 未回答



日本人間ドック健診協会

Japan Association of Ningen Dock Kenshin

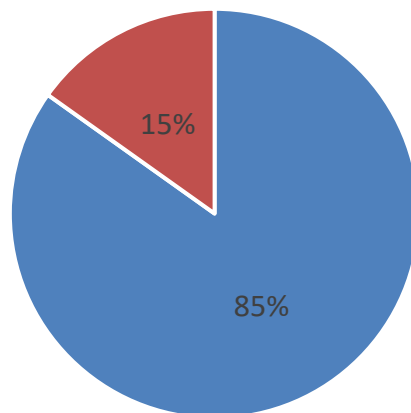
◆スパイロ検査の実施状況について



- 一部のコースでは実施していない
- 契約どおり全面的に実施している
- 全面的に休止している

| | |
|-----------------|----|
| 一部のコースでは実施していない | 5 |
| 契約どおり全面的に実施している | 16 |
| 全面的に休止している | 31 |

◆スパイロ検査を全面的に休止している施設の再開の予定について

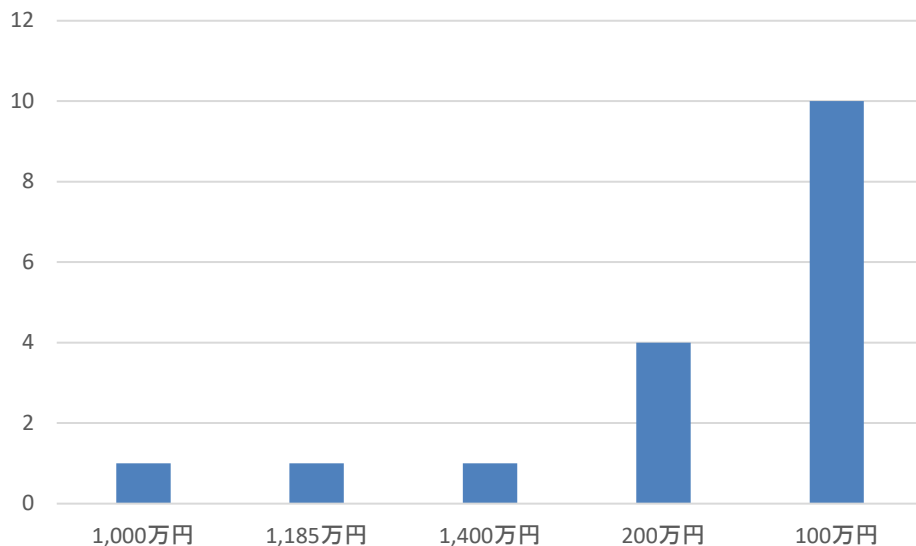


- 現在のところ再開する予定はない
- 新年度から再開を検討している

| | |
|-----------------|----|
| 現在のところ再開する予定はない | 28 |
| 新年度から再開を検討している | 5 |



◆医療機関・薬局等における感染拡大防止等の支援 取得状況



| | |
|---------|----|
| 1,000万円 | 1 |
| 1,185万円 | 1 |
| 1,400万円 | 1 |
| 200万円 | 4 |
| 100万円 | 10 |

◆自治体独自の支援についての取得状況

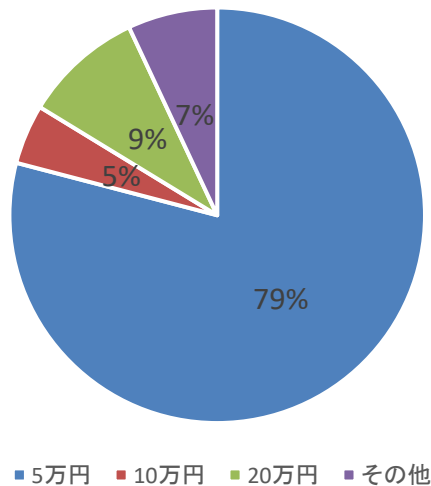
| | | |
|----------|-------|-----|
| 東京・埼玉・京都 | 100万円 | 4施設 |
| 愛知県 | 10万円 | 1施設 |



◆新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金 取得状況

| | | |
|---------|-------|-------|
| 1億円 | 600万円 | 200万円 |
| 1,980万円 | 580万円 | 200万円 |
| 1,360万円 | 500万円 | 191万円 |
| 1,161万円 | 450万円 | 180万円 |
| 1,070万円 | 300万円 | 175万円 |
| 730万円 | 250万円 | 42万円 |
| 700万円 | 238万円 | 35万円 |
| 700万円 | 220万円 | 30万円 |

◆新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金交付事業、1名あたりの申請状況について



| | |
|------|----|
| 5万円 | 34 |
| 10万円 | 2 |
| 20万円 | 4 |
| その他 | 3 |



◆AfterCoronaの健診事業はどのように変化していくとお考えですか①

- ・ここ2-3年は変化なし。
- ・3密を避けた健診事業が継続される
- ・予測ができない
- ・大きくは変わらないと考えている。
- ・国保加入者の受診減少
- ・在宅勤務が増えると都心の健診機関の売上にマイナス影響と考える
- ・開設形態による病院としての信用力、健診に対する理念等により選別が進むと考えられる
- ・オンラインを活用しドック受診の時短化。結果作成請求処理等事務作業を効率化し生産性向上
- ・リモートワークの普及による一斉実施の減少、保険者の保健事業としての縮小が想定される中、法的見地からの必要性による受診率の向上、感染対策事項としての3密回避が求められていく。それぞれが相反する考え方を有しており、この点の議論が行政及び産業界含め進んでいくことが必要になるのではないかと考える。
- ・今年度と同じに、検査受け入れ時間帯を午後(夕方)まで伸ばして時間帯ごとに密にならないようにする。スパイロは、健保の方針に従うことを原則に、実施の場合は検査毎フィルターを交換しながら行う。
- ・予防医学や公衆衛生の重要性がより認知される
- ・基本的には変わらない
- ・ウイルス感染検査や予防接種が健診事業で流行ると考える
- ・健保財政の悪化に伴い、ドック減少、検査項目の削減による減収が懸念される
- ・AI診断や遺伝子検査などが進んでいくと思われる
- ・非接触型で実施可能な検査が模索されたり、導入される
- ・免疫機能に関する検査や結果を基にしたフォローなど
- ・体調確認や標準予防策の継続
- ・リモートワークが定着すると巡回健診の需要は徐々に減少する



◆AfterCoronaの健診事業はどのように変化していくとお考えですか②

- ・現時点では先が読めない
- ・特に変更はないが密のないスムーズなシステム化の取り入れ
- ・通常通りだが、感染対策が強化される
- ・検査項目の見直し, 健診施設滞在時間の短縮, Web活用(問診・面談・保健指導・結果報告書)
- ・コロナワクチン接種がインフルエンザワクチン接種と同様に健診事業になると考える
- ・対面をなるべく避け、必要な検査を必要な方に実施する。
(20代の大腸内視鏡検査など不要な項目は削除してほしい)
- ・まだ予測がつかないため分かりません
- ・滞在時間を短縮するための工夫が必要とされる・ICT化は必要不可欠となり作業効率を上げ、経費削減へとつなげていく
- ・特定保健指導などオンラインで可能な業務は非対面型が標準的なものとなるのでは
- ・健診時にコロナ抗体検査の同時実施⇒抗体価が低い場合はワクチン接種
- ・人との接触を少なく⇒リキッドバイオプシーや遺伝子検査などの需要が高まりハイリスク者のみ健診、ドックを受診するようになるのでは
- ・1日当たりの受入人数減により健診日程が延びる・管理側のペーパーレス化(電子媒体での結果管理など)
- ・不要不急ではなく、必要であることを世間に広めていく必要があり、また、それに対応する感染対策も必要となってくる。
- ・健診は無くならないと思いますが、項目の変化。保健指導等の形式の変化、AI診断等変化について行けるように努力した
- ・国や地方自治体の発信力で予防医学の状況が変わると思う

